

平成31(令和元)年度 南国市立大湊小学校 学校評価書

校長 山崎 雅史 印

学校教育目標		人間性豊かにたくましく生きる大湊の子の育成		研究主題	基礎・基本を身に付け「互いに高め合う児童の育成」～国語・算数・外国語の授業を通して～	
大項目	中項目	評価指標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価
学力向上	(1)規範意識の育成	①大湊シートの「ルール」や「きまり」についての項目で、肯定的評価80%以上。 ②保護者「学校評価アンケート」の「社会のルールやきまりを守る指導」の項目で肯定的評価90%以上。	①「ルール」や「きまり」に関する肯定的評価は、5月期95.5%、11月期90.4%と評価指数を達成できたが、後半5.1P下がった。②保護者アンケートは90.9%である。集会活動等、人の話を聞く習慣の徹底は成果となっている。郊外において危ない遊びをしなく、登下校の安全指導が課題となる。	B	大半の児童は、ルールやきまりを守る意識が育っている。家庭の状況に厳しさがある児童への具体的支援を、関係機関と連携して進めていきたい。	○ルールやきまりの項目はすべて目標値を上回っており、規範意識は育っている。机・ロッカーの整理などの項目については、1学期の数値より少し低くなっていることから、学校ぐるみでの課題の共有と取り組みが大切である。また、課題ところを児童とともに評価していくことが必要である。 ○授業についての肯定的評価はいずれも90%を超えており、特に授業中しっか聞くは100%と、授業に対し熱心に取り組んでいることがわかる。単式・複式学級の授業改善のため、さらに校内研修の充実を努めてもらいたい。また、授業中の児童の発表や報告・児童同士の意見交換などの場を積極的に取り入れ、児童の良かったところを見つけ、学習意欲を高めてほしい。 ○保護者のアンケート結果から家庭学習の習慣化が児童に身についていることが分かる。中学校と連携した自主学習ノートの取り組みや家庭学習の学年別時間の実施状況など、学級で評価していることや、学級懇談の中で協議内容に入れたらして、児童の積極性を高めていくことが大切である。 ○英語が好き、大切ななどの質問に対して90%以上の回答があり、英語学習の意識が高いことが分かる。単式・複式学級など、今後充実した取り組みを行ってほしい。また、中学英語につなぐ研修推進もブロックで進めてほしい。
	(2)授業改善	①各種学力検査で、全国平均を5P以上。 ②大湊シートの「授業」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ・授業中、先生や友だちの話をしっかり聞いている。 ・自分の思いや考えを発表している。 ・授業は分かりやすい	①学年より差が出ており、小学校2・4年での国語科が課題となる。朝学習や帯タイムの取組や放課後の加力指導は基礎学力の定着に効果が出ている。②「授業」に関する項目の11月期の評価は、・授業中話を聞く100%・自分の考えを発表する95.7%・授業は分かりやすい97.8%と、すべての項目で5月期より上がった。複式学級における授業研究を進めたい。	B	朝学習での音読や帯タイムでの国語シート・単元テスト等を活用して継続的に補充学習を行っていく。また、国語辞典の活用・漢字とことばの定着度測定・条件に合わせて書く練習や、例示されたことを参考にして、自分の言葉で書く練習を行っていく。	○授業についての肯定的評価はいずれも90%を超えており、特に授業中しっか聞くは100%と、授業に対し熱心に取り組んでいることがわかる。単式・複式学級の授業改善のため、さらに校内研修の充実を努めてもらいたい。また、授業中の児童の発表や報告・児童同士の意見交換などの場を積極的に取り入れ、児童の良かったところを見つけ、学習意欲を高めてほしい。 ○保護者のアンケート結果から家庭学習の習慣化が児童に身についていることが分かる。中学校と連携した自主学習ノートの取り組みや家庭学習の学年別時間の実施状況など、学級で評価していることや、学級懇談の中で協議内容に入れたらして、児童の積極性を高めていくことが大切である。 ○英語が好き、大切ななどの質問に対して90%以上の回答があり、英語学習の意識が高いことが分かる。単式・複式学級など、今後充実した取り組みを行ってほしい。また、中学英語につなぐ研修推進もブロックで進めてほしい。
	(3)家庭学習	①中学校区で統一した自主学習ノートコンクールの実施。 ②中学校区で統一した生活習慣しらべ、年間5回以上実施。 ③保護者アンケートの家庭学習に関する肯定的評価85%以上	①中学校と連携した自主学習ノートの取組は、ブロック全体で定着している。②生活調査5回実施は全学年とも実施できた。③家庭学習に関する保護者アンケートは、肯定的評価86.4%で昨年度より、5%以上向上している。	A	香南中学校ブロックとして足並みをそろえた取組を今後も進めたい。家庭学習は、家庭の協力を得ながら、定着率が向上しているが、特定の児童への支援が必要である。個に応じた課題設定を今後工夫していく。	○香南中学校ブロックとして足並みをそろえた取組を今後も進めたい。家庭学習は、家庭の協力を得ながら、定着率が向上しているが、特定の児童への支援が必要である。個に応じた課題設定を今後工夫していく。
	(4)英語教育の推進	①全学級で講師を招聘した授業研を実施。 ②大湊シートの「英語」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ・英語がすき ・英語は大切だと思う ・英語をもっと話せるようになりたいと思う。	①全学級で講師を招聘した授業研を実施し、今後の複式学級での授業や英語についてのアドバイスを受けた。 ②大湊シートの「英語が好き」91.3%「英語は大切だと思う」95.7%で目標指数達成。「英語を話せるようになりたい」では、73.9%と大きく後退している。	B	次年度以降も、国際交流等を通じて、児童の英語に対する学習意欲の向上を図るとともに、研究授業を通して、教員の指導力の向上を目指す。「将来英語をつかった仕事をしたい」は、43.5%と、継続した課題となっている。キャリア教育との関連を図りながら、英語の必要性についても考えさせたい。	○次年度以降も、国際交流等を通じて、児童の英語に対する学習意欲の向上を図るとともに、研究授業を通して、教員の指導力の向上を目指す。「将来英語をつかった仕事をしたい」は、43.5%と、継続した課題となっている。キャリア教育との関連を図りながら、英語の必要性についても考えさせたい。
生徒指導	(1)道徳教育の推進	①道徳の公開授業一人1回以上 ②大湊シートの「あいさつ」「掃除」について、次の項目で肯定的評価90%以上。 ・自分からあいさつをしている ・掃除をまじめにしている ・「教室」や「ろうか」などにゴミが落ちていたらひろうようにしている。	①人権参観日に道徳の公開授業を行っているが、校内研修は実施できなかった。②「あいさつ」97.8%「そうじ」100%で目標指数を達成。「ゴミをひろう」では、80.4%で、環境美化に対する意識を高めた。掃除への取組は100%で、委員会での評価活動が成果となっている。	A	複式学級での道徳実践を考え、各学年の教材の見直しを行う。「あいさつ」「そうじ」に関しては、全体的によく取組んでいるので、今後も委員会での評価活動を行いながら、児童が自主的に取組むことが出来よう意識付けを図りたい。	○掃除をまじめにしているの回答では100%と児童の実践的行動は素晴らしい。受け身でなく、自主的に道徳の実践を行えるよう、児童の行動を学校全体で評価しあい、学校・学級便りなどで家庭にも知らせていくことが大切である。横断歩道で車を止めた時、一礼して渡っていくことなど、実践力が育ってきている。 ○自分は人をいじめることはないの質問では95.7%と高い、また友だちや下級生にやさしくしているでは、91.3%と良い結果が得られている。課題がある場合には、事実把握や情報共有に努め、必要であれば関係機関等と交流し、一貫した支援・指導体制が大切である。
	(2)いじめ・不登校・問題行動等への対応	①大湊シートの「いじめ」防止について、次の項目で肯定的評価90%以上 ・学校や学級の中にいじめはない。 ・自分は人をいじめることはない。 ②保護者「学校評価アンケート」の「いじめのない学校づくり」の項目で肯定的評価90%以上	①「学校や学級にいじめはない」89.1%「人をいじめない」95.7%とほぼ目標指数を達成できた。しかし、単発的ないじめは数件認知されており、教職員での見守りを継続していきたい。②保護者アンケートでも「いじめのない学校づくり」に関する肯定的評価93.2%で目標指数は達成できている。	B	仲間づくり委員会の取組や、学級としてのいじめ防止の取組をより具体的なものとし、友だちを大切にすることを育てたい。また、教職員一人ひとりが児童の心に寄り添いながら、日常の対話を通して、感情の変化や仲間関係の変化を注意深く見取っていく。	○自分は人をいじめることはないの質問では95.7%と高い、また友だちや下級生にやさしくしているでは、91.3%と良い結果が得られている。課題がある場合には、事実把握や情報共有に努め、必要であれば関係機関等と交流し、一貫した支援・指導体制が大切である。 ○「自分にはいいところがある」「人の役に立つことがある」の質問ではいずれも87%と高く、人との関わりの中で自尊感情が育っていることが分かる。これからも、児童の肯定的評価をより高めていくために、人との関わりを深めてほしい。自己肯定感の低い児童には、愛めること、認めることを継続してもらいたい。 ○Q-Uの結果も教員との関係も良好である。日々の授業を含め、全教育活動の中で、さらによりよい人間関係が育まれるよう、児童のコミュニケーション力を高めたり、友だちの良いことを認めあったり、課題に沿った取り組みを行うとよい。
	(3)自尊感情の育成	①大湊シートの「自尊感情」について、次の項目で肯定的評価85%以上 ・自分にはいいところがある ・自分のことがすきだ ・自信を持って、いろんなことができる	①「自分にはいいところがある」87.0%「自分のことが好き」80.4%「物事を自信を持ってできる」80.4%と、目標指数を達成できていない項目はあるが、全体的には様々なことできいきと取り組んでいる。	B	様々な体験学習を通して、学校全体としての児童の達成感や充実感を育成していく。また、教員による肯定的評価を適時に行いたい。自尊感情が育っていない児童に対しては、職員全体での情報共有を図り、支援方針を見出していく。	○「自分にはいいところがある」「人の役に立つことがある」の質問ではいずれも87%と高く、人との関わりの中で自尊感情が育っていることが分かる。これからも、児童の肯定的評価をより高めていくために、人との関わりを深めてほしい。自己肯定感の低い児童には、愛めること、認めることを継続してもらいたい。 ○Q-Uの結果も教員との関係も良好である。日々の授業を含め、全教育活動の中で、さらによりよい人間関係が育まれるよう、児童のコミュニケーション力を高めたり、友だちの良いことを認めあったり、課題に沿った取り組みを行うとよい。
	(4)人間関係づくり推進(児童・児童と教師)	①Q-Uアンケート、前期調査より後期調査で学級満足群の児童増加と要支援群の児童減少 ②大湊シートの「先生」について、次の項目で肯定的評価90%以上 ・先生はあなたのがんばりを認めてくれる ・先生と仲良くできていない。	①要支援群の児童は前期・後期ともいなかった。②「先生ががんばり認めてくれる」97.8%「先生と仲良くできる」97.8%「先生は平等に接してくれる」97.8%で、児童と教職員との関係はおおむね良好である。しかし、「自分の思いを話せない」児童が1割程度いるので、個別の声掛けをしなくてはならない。	A	常に児童の変化に注意を払い、必要に応じた支援策を講じていく。また、チーム学校として児童の良さを評価する取組を推進する。教職員は常にカウンセリングマインドを大切にし、児童の内面に寄り添った指導を行う。	○Q-Uの結果も教員との関係も良好である。日々の授業を含め、全教育活動の中で、さらによりよい人間関係が育まれるよう、児童のコミュニケーション力を高めたり、友だちの良いことを認めあったり、課題に沿った取り組みを行うとよい。
家庭・地域・学校の連携	(1)保幼小連携の推進	①年間5回以上の交流・連携事業の実施	①年間5回以上の交流や合同避難訓練を行った。	A	次年度以降、校区に保育所がなくなるので児童の交流の機会は無くなるが、保育士との情報交換はブロックで行う。	○保育所から小学校への円滑な成長が育まれるよう、今後も保・小の連携に取り組んでもらいたい。特に保育所が来年度より閉所するため、中学校区内ブロック研修会の中で統合先の保育所との連絡を深めることが必要である。 ○南海トラフ地震を想定しての訓練の成果が出ており、児童に避難行動などの意識と行動力が確実に育っている。今後も地域ぐるみの防災教育を充実してほしい。 ○学校支援委員会の開催や地域行事への参加で、学校と地域の連携が充実してきている。特に地域行事では、児童の笑顔があり、うれしく感じられる。児童数が減ってきている中、学校から地域への連絡等を含め、取り組みを深めてほしい。 ○保護者からの回答で98.7%と家庭への情報連絡が十分に取れていることが分かる。特に学校便りでは、日々の活動の様子とともに、頑張っている児童の様子がよく理解できる。今後も学校と家庭を結ぶ情報交換をお便りや学級通信などで続けてほしい。
	(2)防災教育の推進	①大湊シート・保護者「学校評価アンケート」の防災に関する項目で、肯定的評価90%以上。 ②地域と連携した防災訓練や講演会の実施。 ③伝言ダイヤルを利用した防災訓練、年6回以上実施。	①児童アンケート・学校評価とも、肯定的評価95%以上で評価指数を達成できた。②地域と連携した防災訓練で、南海トラフ地震に関する「臨時情報」に関する危機管理課からの説明会を持つことが出来た。③防災伝言ダイヤルを使った情報発信を6回行った。	A	学年に応じた防災学習の取組を充実させていく。また、避難訓練における不明者・負傷者救助の方法について、見直しを行っていく。登下校における安全確保についても、再度検証していく。	○児童数が減少するなか、地域との連携が継続できるよう、学校としての体制を整える。地域の行事等への参加は、教職員の業務改善を図りつつ、改善を図って行く。
	(3)地域との連携	①地域に対する授業参観及び児童アンケートをもとにした学校支援委員会との協議・懇談の実施。 ②地域の行事への学校組織としての参加。	①学校支援委員会との協議・懇談会を開催し、学校の状況について説明できた。また、防災に関する情報交換や環境整備についても連携した取組を継続している。②地域行事へは学校組織として参加体制を整えることが出来た。	A	児童数が減少するなか、地域との連携が継続できるよう、学校としての体制を整える。地域の行事等への参加は、教職員の業務改善を図りつつ、改善を図って行く。	○児童数が減少するなか、地域との連携が継続できるよう、学校としての体制を整える。地域の行事等への参加は、教職員の業務改善を図りつつ、改善を図って行く。
	(4)学校からの情報発信の充実	①学校だよりの充実、定期的な配布 ②「学校評価アンケート」の情報発信に関する項目で、肯定的評価90%以上。	①学校だよりは家庭・地域に定期的に配布し、児童の様子を知らせることが出来た。②学校評価アンケートの情報発信に関する項目は、97.7%の肯定的評価であった。	A	今年、学校だよりに返信欄を設けたが、十分な活用はなかった。家庭とは各学級の連絡帳で情報交換を行う。学校だよりの返信欄は、継続して設定しておく。	○今年、学校だよりに返信欄を設けたが、十分な活用はなかった。家庭とは各学級の連絡帳で情報交換を行う。学校だよりの返信欄は、継続して設定しておく。

(A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を達成できなかった)

学校関係者評価を踏まえての改善点

- ①「認める」評価の工夫と、授業における言語活動の質の向上。②複式授業の校内研究の継続と個別の加力指導の充実。③家庭学習についての保護者への一層の啓発。④英語教育の研究と実践の推進。日常的な英語環境の充実。
- ①道徳的行動に対する適時評価と家庭・保護者への情報発信の工夫。②地域と連携した情報把握や、関係機関と連携した支援・指導体制の確立。③自尊感情の低い児童への個別支援・評価活動の継続。④児童のコミュニケーション能力育成と評価活動の充実。
- ①中学校区にある保育所との連携。②地域ぐるみの防災教育の充実 ③児童数が減少する中での地域との連携強化 ④情報発信の更なる充実と工夫。学校と家庭が双方向の情報共有ができるようにする。